

令和4年度 緑の回廊雨飾・戸隠モニタリング調査結果
総括整理表

資料 2

調査年度：令和4年度

緑の回廊名	緑の回廊雨飾・戸隠			
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局 中信森林管理署 北信森林管理署			
所在地	長野県 (小谷村、長野市)			
面積	3,792.09ha			
設定・変更年	平成12年度			

緑の回廊概況写真		緑の回廊の概要等		過去のモニタリング実施概況	
	緑の回廊の概要 (設定目的)	雨飾・天狗原山植物群落保護林から、戸隠山特定地理等保護林等を結ぶ区域で、保護林と保護林を連結し、野生動物の日常行動や季節移動時の経路を作ることにより、分断された個体の交流を促し、個体群の遺伝的組成の健全化を図る。また、植物についても、動物による花粉媒介や種子散布を通しての交配拡大を図るなど、森林生態系の構成者である野生動植物の多様性の保全を図ることを目的とする。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	【平成25年度報告書より】 ・森林概況調査：過年度と大きな変化はみられなかった。過年度に確認されたナラ枯れも確認できなかった。 ・動物調査 (哺乳類)：自動撮影カメラにより13種、痕跡調査により12種、合わせて20種が確認された。ニホンジカが戸隠地域で増加している。 ・聞き取り調査：農林業被害について聞き取りを行った。例年よりツキノワグマとイノシシの被害が減った。 ・種子の豊凶調査：ブナ、ミズナラともに豊作傾向であった。
	法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、妙高戸隠連山国立公園、鳥獣保護区、レクリエーションの森		実施時期・回数	緑の回廊モニタリング調査 (平成15～19年、平成21～25年) 森林生態系多様性基礎調査 (平成30年)

調査項目	調査手法	調査概要
森林概況調査	森林概況調査	各プロットの林分は天然林が主体で、一部のプロットで混交林 (スギ林) や人工林 (カラマツ林) となっている。林分の発達段階は、成熟段階から老齢段階であった。土砂災害や工事等による顕著な環境変化は確認されなかった。
森林階層ごとの植生調査 (森林調査)	植生調査	高木層・亜高木層の優占種はブナやミズナラが多く、一部のプロットでスギやカラマツなども確認された。戸隠地域のP11では、シラカンバからウダイカンバへ遷移が進み林分構造が変化していたが、ほとんどのプロットで前回と同様に発達した階層構造の林分が確認された。林齢が高いプロットではギャップによる天然更新が行われている状況も確認された。低木層・草本層は、オオカメノキやクマイザサなどが優占するプロットが多かった。ニホンジカによる下層植生の衰退は確認されなかったが、戸隠地域のプロットを中心にニホンジカの食痕や剥皮が散見された。
動物調査 (哺乳類)	自動撮影カメラ痕跡調査	痕跡調査により11種、自動撮影カメラにより14種の哺乳類を確認した。自動撮影カメラによる確認種数はP11で12種と最も多かった。ツキノワグマやニホンザルに顕著な変動傾向は確認されなかった。ニホンジカ、イノシシはH15年度のモニタリング開始時に比べ明らかに確認頻度が増加していた。ニホンジカは幼獣が撮影されたプロットも増加しており、戸隠を中心に定着が進んでいると考えられた。ノウサギは前回のH25年度調査に比べて大きく減少した。
動物調査 (鳥類)	スポットセンサス	夏季と秋季の2回の調査の結果、49種の鳥類を確認した。確認種数は、P7で31種と最も多かった。今回の調査では外来種は確認されなかった。過年度調査 (H16～H19) との比較では、アオゲラ、カケス、ヤマガラ等の確認プロット数が増加した。ニホンジカの影響を受けやすいとされるアオジやウグイス類等に減少傾向は確認されなかった。
聞き取り調査	聞き取り調査	森林事務所、市町村への聞き取り調査の結果、ニホンジカやイノシシの分布拡大や農林業被害の増大に関する情報が得られた。今年のツキノワグマによる農作物の被害については例年より報告が少ないとの情報が得られた。ノウサギについては、昭和の終わりくらいから減少し始めたとのことである。
種子の豊凶調査データの集計	資料調査	地域や調査年によって豊凶に差異がみられるが、令和4年は大北地域のミズナラ、ブナは不作、長野地域のミズナラは不作、ブナは並作であった。

評価・課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の回廊雨飾・戸隠は、ブナ林やミズナラ林が広がり、ツキノワグマをはじめとした野生動植物が多く生息・生育する豊かな森林生態系が維持されている。今回の調査では、ほとんどのプロットで前回と同様に発達した階層構造の林分が確認された。ミズナラ林ではツキノワグマやイノシシなどが堅果の採餌に頻繁に訪れる状況も確認され、森林生態系の質を維持するための緑の回廊としての機能が保たれていると考えられる。 ・前回調査である平成25年に比べ、ツキノワグマやニホンザルの生息状況に大きな変化はみられなかったが、ニホンジカやイノシシの増加が確認された。特にニホンジカはメス個体や幼獣の確認が増加しており、戸隠地域への定着が進んでいる可能性がある。 ・ニホンジカが増加したことによる下層植生の変化は現時点では確認されていないが、戸隠地域を中心にニホンジカの定着が進んでいると考えられることから、今後の動向に注意が必要である。
--------	---